

# 複数農協による育苗施設等の 相互利用について

## ～「三方よし」の農協間連携の構築～

JAレーク伊吹  
経済部 販売施設課  
大橋 守 課長



写真：近江日野商人館

# JAレーク伊吹について

当組合は、湖北地域と呼ばれる琵琶湖と伊吹山に囲まれ、滋賀県北部の米原市と長浜市（一部）に位置し、米・麦・大豆や露地野菜、施設野菜、果物など多様な農業が行われている。



JAレーク伊吹キャラクター「みのりちゃん」



滋賀県の面積の約6分の1は琵琶湖



岐阜・福井県境に接する湖北地域 1

# 産地の現状と課題

- ▷ レーク伊吹農協は、密苗生産のニーズがあるものの、設備が対応しておらず、対応できなかったことが課題。
- ▷ 隣接する北びわこ農協は、自前の育苗施設だけでは硬化苗の生産能力が不足しており、管内の水稲苗供給量を賄えないことが課題。
- ▷ 双方の農協で、ブロッコリーとタマネギの野菜苗の育苗を行っていたが、作業時期が重なるため職員の多忙さが課題。

# 取り組みの概要と効果

- ▷ 稲作や野菜栽培など類似した地域農業の特徴を持つレーク伊吹農協と北びわこ農協が連携
  - ・ 双方の育苗施設を相互利用することで、水稻の硬化苗と密苗（現在は、直播用コーティング種子）を補完
  - ・ 作業時期の重なるブロッコリーとタマネギの育苗を分業
- ▷ 一品目に専念することで施設の稼働率が高まり、生産性が向上
- ▷ 育苗時期の重なる品目を分業することで農協職員の作業負担を軽減



# 複数農協による相互利用の内容①

## ～水稻育苗での連携～

- ▷ レーク伊吹農協は管内施設の生産余剰能力を利用して、北びわこ農協に出芽苗・硬化苗を供給。
- ▷ 一方、自前の施設では生産できない密苗（令和5年より直播用コーティング種子）を、専用のプラントを持つ北びわこ農協から供給してもらうことで相互補完を実現。

# 複数農協による相互利用の内容②

## ～野菜苗の分業～

- ▷ 「タマネギ」は、レーク伊吹農協  
「ブロッコリー」は、北びわこ農協  
と育苗を分業し、相互で施設を利用。
- ▷ 組合員から注文を受けて、相互に品種と数量を発注。  
生産した野菜苗は、双方の農協の組合員に提供。

pick up  
営農指導  
活動

水田野菜の推進品目  
加工業務用タマネギの苗をお届け

特産振興課は11月4日から、管内の農業者に向けて加工業務用タマネギの苗の配布を始めました。今年の提供箱数は8,894箱です。

今年は9月15日から種まきを始め、残暑の影響を抑えるため、遮光ネットを使用するなどの暑さ対策を行いながら管理しました。順調に生育し、加工業務用の生産者をはじめ、組合員が購入できる苗や、県内3JAへの供給分も確保することができました。



特産振興課  
水森 寛太  
(園芸振興担当)



# 施設の有効活用により期待される効果

- ▷ レーク伊吹農協にとっては、育苗施設の供給力に余裕があるため、新規投資を行うことなく育苗供給が可能であり、稼働率を高めて施設を有効活用することで、農業関連事業の収益が増加。
- ▷ 北びわこ農協にとっては、自農協の育苗能力を超える数量の発注が可能となったことで、組合員の要望に対応。
- ▷ 野菜苗の分業によって、一品目の育苗に専念できるようになったため、双方の農協で、生産性が高まり職員の負担軽減も達成。
- ▷ 近年は県南東部のJAからもタマネギ苗の引き合い。

# 持続性確保の工夫

## ▷ 料金（受託単価）

- ・ 施設の持続性確保と組合員サービスの両立には、JA間で「複数年契約」を交わす等の工夫が必要
- ・ 単年契約では踏み込んだ値引きは困難

・ 覚書にて、売渡数量について3年間の最低契約数量を定め、数量以上の買受けを義務化、価格の安定化を図る

## ▷ 原材料・資材の負担区分

- ・ 委託側が種子センター経由で手配、受託側は受入のみ

## ▷ 運営コスト（床土、灌水、温度管理等）

- ・ 受託側（施設側）が負担

## ▷ 引渡し・運送ルール

- ・ 施設側渡しが基本、委託側農協が運送手配

# 結び

- ▷ 複数農協間において、連携・相互利用に至るには、事前に、役員や担当者同士が頻繁に相談、信頼を積み重ねる必要

- ・ 従前から、JA伊吹はJA北びわこのプラントメンテナンスを請け負っていた関係があった
- ・ 県中央会主催の会合で連携を模索する機会があった

- ▷ 近江商人の「三方よし」
- 【組合員よし】 苗の安定供給
  - 【農協よし】 稼働率向上、コスト削減
  - 【他の農協よし】 省力化、設備投資不要

